

高岡町埋蔵文化財調査報告書 第42集

梅木田遺跡 1 区

(B・C地点)

県営経営体育成基盤整備事業(小山田地区)に伴う
埋蔵文化財調査報告書

2005.12

宮崎県高岡町教育委員会

高岡町埋蔵文化財調査報告書 第42集

梅木田遺跡 1 区

(B・C地点)

県営経営体育成基盤整備事業(小山田地区)に伴う
埋蔵文化財調査報告書

2005.12

宮崎県高岡町教育委員会

序 文

この報告書は、県営経営体育成基盤整備事業に伴い、平成15年度に実施した、梅木田遺跡における埋蔵文化財発掘調査の報告書であります。

この調査により、中世の遺構や遺物が検出され、南九州の当時の歴史を解明するうえで多大な成果をあげることができました。


この発掘調査で明らかにされたものは、先人が残した私たちの文化遺産であり、これらの成果を活かすことが、我々に課せられた重大な責務と考えております。本書が町内に所在する文化財の保存に役され、また本町の学術資料として学校教育、社会教育などに幅広く活用頂ければ幸いに存じます。

尚、発掘調査を実施するにあたり、関係各者より頂いたご指導とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

平成17年12月

高岡町教育委員会
教育長 中山 芳 教

例言・凡例

- 1 本書は、県営経営体育成基盤整備事業に伴い、2003年度（平成15年度）に高岡町が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告である。
- 2 現場における測量・実測作業は、一部を（有）ジバング・サーベイに委託し、他を藤木（廣田）晶子が行なった。
- 3 出土した木製品の保存処理及び樹種同定を、株式会社京都科学に委託した。
- 4 遺物の実測・拓本・製図は、（高岡町教育委員会）の協力を得て、藤木が行なった。
- 5 現場における空中写真撮影は、有限会社スカイサーベイ九州に委託した。
- 6 本書は、旧日本測地系による座標を用いている。
- 7 梅木田遺跡の遺跡番号は337、1区B地点は33703、1区C地点は33704とする。出土遺物は、高岡町教育委員会に保管している。遺物の注記は、「遺跡番号－遺物番号/包含層層位－遺物取上番号」を基本とし、取蔵番号については、「報告書シリーズ番号＋報告書内遺物番号」としている。
- 8 第Ⅲ章を除く本書の執筆及び編集は、藤木が行なった。
- 9 法量の単位は遺構は「m」、遺物は「cm」である。
- 10 上層注記中の「白色粒」は、A地点の調査成果より、板島文明軽石と判明している。

目次

本文目次

第1章 はじめに	6
第1節 調査の経過と組織	6
第2節 遺跡の立地と周辺の環境	6
第3節 遺跡の概要	10
第II章 調査	11
第1節 調査の方法	11
第2節 B地点の調査	12
第3節 C地点の調査	17
第III章 自然科学分析	20
第1節 梅木田遺跡出土木製品の樹種	20
第IV章 まとめ	26

挿図目次

第1図 遺跡分布図	7	第10図 土層断面図	15
第2図 周辺地形図	9	第11図 IIIb層上面遺構配置図	16
第3図 調査区位置図	10	第12図 土層断面図	16
第4図 B地点全体図	11	第13図 遺物実測図	16
第5図 地山上面遺構配置図(1)	12	第14図 遺物実測図	16
第6図 土層断面図	12	第15図 C地点全体図	17
第7図 遺物実測図(1)	13	第16図 2号溝杭列実測図	18
第8図 遺物実測図(2)	14	第17図 土層断面図	18
第9図 地山上面遺構配置図(2)	15	第18図 遺構変遷図	26

表目次

表1 土器観察表	19	表4 木製品観察表	19
表2 土製品観察表	19	表5 梅木田遺跡出土木製品の樹種同定一覧	25
表3 石器観察表	19	表6 報告書抄録	32

写真図版

図版1 遺跡遠景	27
図版2 保存処理木製品	28
図版3 B地点(2号溝、5号溝、6号溝、1号土坑)	29
図版4 C地点(2号溝杭列、上層7、7号溝)、出土遺物	30
図版5 出土遺物	31

第I章 はじめに

第1節 調査の経過と組織

1 調査経緯

遺跡は、宮崎県東諸県郡高岡町大字小山田2074外に所在する。調査の契機は、まず、宮崎県中部農林振興局（以下県振興局）から文化財の有無についての問い合わせがあった。平成14年12月17日に、県振興局、町農村整備課、小山田地区土地改良区理事長、県文化課（現県文化財課）、町教育委員会とで、平成15年度の施工予定範囲についての協議を行なった。その中で近接地の遺跡から事業地内において遺跡の所在が予想される範囲について試掘を行なうこととなった。試掘は、県文化課によって、平成15年1月7日～8日、平成15年3月12日～26日で実施した。その結果、近接地の遺跡で確認された溝状遺構の延長部分が検出された。その後、4月に県振興局と町教育委員会で再度協議を行ない、B地点及びC地点の調査を行なうこととなった。緊急を要するため、B地点は4月から調査を開始した。C地点は、6月中旬から7月中旬に実施する予定であったが、工事工程の都合から12月に変更になった。

調査期間は、B地点が平成15年4月22日～6月5日まで、C地点が平成15年12月9日～12月26日までである。

2 調査組織

調査主体 高岡町教育委員会

調査

2003年度（平成15年度）

教育長 中山 芳教
社会教育課長 小岩崎 正
文化財係長 島田 正浩
主 事 廣田 晶子

整理・報告

2005年度（平成17年度）

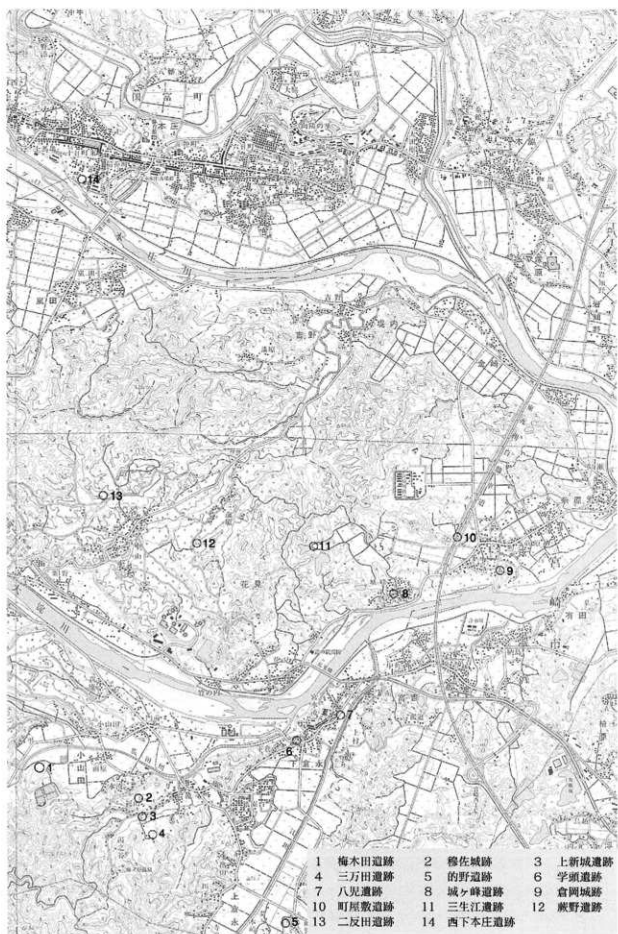
教育長 中山 芳教
社会教育課長 永尾 武士
社会教育課長補佐 浜田 宏二
文化財係長 島田 正浩
主 事 藤木 晶子

また、調査を実施するにあたり、地権者の方をはじめ関係各位のご理解とご協力を頂いた。また、発掘調査から整理報告に至るまで、竹井真知子（元宮崎県文化課）、和田理啓（宮崎県文化財課）、松林豊樹（宮崎県埋蔵文化財センター）各氏のご指導・ご助言を得ている。記して深謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

第2節 遺跡の立地と周辺環境

1 地形的環境

高岡町は山林が70%以上を占める。その町中央を蛇行しながら大淀川が東流し、それによって形成された河岸段丘からその東側に広がる宮崎平野を一望できる。この大淀川に起因する自然環境が大きく



第1圖 遺跡分布図

人々の生活を左右していたことはいまでもなく、しかるに歴史的要因にも導かれていた。高岡町の地形について合原敏幸氏⁽¹⁾は「高岡町南部の高岡山地中央部及び東部には白亜紀の四万十累層群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、一部玄武岩、凝灰岩などの塩基性岩類が含まれる。内之八重付近の砂岩頁岩互層中には塩基性岩類に伴って、厚さ1m～2mのチャートが見られる。高岡山地西部には、古第三紀の四万十累群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、高岡山地を南北に横切る高岡断層によって前述の白亜紀の層に接している。高岡町の中心部付近及び高岡山地北部には、新第三紀の宮崎層群に属する砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層が広い範囲で分布している。本層は四万十累層群を傾斜不整合の覆う海成層で、貝、カニ、ウニ等の化石を含む。さらに、町中心部付近に及び西部は宮崎層群を不整合に覆い第四紀の礫、砂、及び粘土からなる段丘堆積物、主にシラスからなる始良噴出物、及び主に礫、砂シルトからなる沖積層がみられる。段丘堆積物、始良火山噴出物は急傾斜とその上の広い平坦面や緩斜面から形成される台地状の地形を有している。沖積層は、大淀川、浦之名川、内山川、飯田川等の河川流域沿いに分布している。」(高岡町埋蔵文化財調査報告書12集より抜粋)としている。

(1) 高岡町役場職員

2 歴史的環境

旧石器時代 遺跡の多くは台地あるいは河岸段丘上で確認されている。町内最古の遺跡は、始良Tn火山灰下位の黒色帯で確認され、小山田・高浜地区にまたがる一連の遺跡群で発見された。高野原遺跡第4地点と永迫第1遺跡、永迫第2遺跡である。始良Tn火山灰上位の遺跡は、向屋敷遺跡と高野原遺跡第1・2地点、永迫第1遺跡、小田元第2遺跡、久木野遺跡第8地点等がある。

縄文時代 草創期資料は、茶屋原遺跡で爪形文土器が出土したのみである。早期の発掘調査例は多く、天ヶ城跡、宗栄司、久木野、橋山第1、橋上、八久保第2、榎原、中原、的野、高野原、永迫第1、永迫第2の各遺跡が挙げられる。永迫第2遺跡ではアカホヤ火山灰下位から块状耳飾が出土した。各遺跡の遺構は、集石遺構や陥し穴状遺構が中心で掘り込みや柱穴をもつ住居は現時点では検出していない。前期は久木野遺跡第1区、永迫第2遺跡などで確認されている。中期は同じく久木野遺跡で春日、大平、岩崎下層の各型式のものが出土している。後期は的野遺跡で阿高系・岩崎下層式、綾式土器などが出土した。橋山第1遺跡では阿高系の土器や疑似縄文の土器が出土した。さらに久木野遺跡では円形陥穴住居跡とともに北久根山式が出土している。城ヶ峰遺跡では市来式や北久根山式が出土した。学頭遺跡では、新潟県糸魚川産ヒスイ製緒締形勾玉などの装身具が出土した。晩期は黒色磨研土器が学頭遺跡から出土している。

弥生時代 後期資料の調査例が多く、前～中期の調査例は少ない。標高15m程の微高地状のところに位置する学頭遺跡からは、断面V字状を呈する溝状遺構や竪穴住居跡が検出された。舌状の丘陵先端部の位置する的野遺跡では、後期の土壌墓が検出された。

古墳時代 集落遺跡の調査は八兒遺跡や高岡麓遺跡第5地点がある。高岡麓遺跡では2軒の竪穴住居跡が検出され5世紀中頃に比定されている。また、八兒遺跡は側壁にカマドが付設された竪穴住居跡(7世紀代)などが12軒以上検出された。両遺跡とも標高がほぼ同じで大淀川の氾濫源である低地に位置しており、該期集落の一端をみる事が出来る。次に、墳墓遺跡の調査は久木野地下式横穴墓群

がある。これまで4基の調査がおこなわれ、人骨とともに鉄斧や玉類が出土し6世紀前半としている。また、町内には3基の円墳（県指定古墳）があり、周辺で壘2点と鉄製品が採集された。

古代 高岡周辺は承平年間（931～938年）の和名抄によると、その当時は「穆佐郷」といわれていた。それより遡る時代の遺跡が最近の調査で確認されている。一つは蕨野遺跡で、大淀川北岸の丘陵（大字花見）に位置し、9世紀後半の土師器の椀、皿などを生産した焼成遺構が6基以上検出された。三生江遺跡や野遺跡からは同時期の越州窯系青磁椀や緑釉陶器などが出土している。また、宗栄司遺跡や二反野遺跡で土師器椀が出土している。古代の墳墓としては、八兄遺跡から胡洲鏡、鈴、石鏃等を副葬した土墳墓が検出されている。

中世 建久岡田帳によると高岡は、12世紀には「島津庄穆佐院」といわれていた。その後、南北朝期を経て、島津氏と伊東氏の対立を迎える。その中心となったのが穆佐城である。穆佐城は足利尊氏が九州の拠点としたことから始まる。その後、島津久豊・忠国の居城、そして伊東氏48城のひとつとなっていく。平成3年には穆佐城の縄張り調査を実施し、その成果として、南九州特有の特徴をもつとともに機能分化のみられる山城であることがわかった。そのような中で、穆佐城周辺の大淀川沿いにも小規模な山城が点在し、戦国時代から近世へと移っていく。

近世 中世までは高岡の中心地は穆佐城周辺だったのに対して江戸の時期になると天ヶ城周辺に一変する。鹿兒島藩は、天ヶ城と穆佐城の裾地に多くの郷土を移住させ藩を形成させた。そして、綾、倉岡とともに関外四ヶ郷として、特に高岡郷はその中心として鹿兒島藩の東方の防衛の要として発展する。高岡の地頭飯屋を中心に広がる高岡籠遺跡は、計画的な街路設計がなされ、郷土屋敷群と町屋群に分割されている。調査はすでに2箇所以上で実施され、町屋を調査した第1地点では大火跡と思



第2図 周辺地形図 (S=1/10,000)

われる焼土層の下から素掘りの井戸や土坑を検出した。さらに、第5地点では郷土屋敷群の一角を調査し建物跡や陶磁器類を検出、第8地点では武家門の下部構造を明らかにした。上倉永地区の八反田・川子地区墓地群の調査では、墓石から少なくとも寛文八年（1668年）約300年間にわたり利用され、鹿兒島藩時代の穆佐郷土層と、上倉永の農民層の墓地として使用されていたことが判明している。

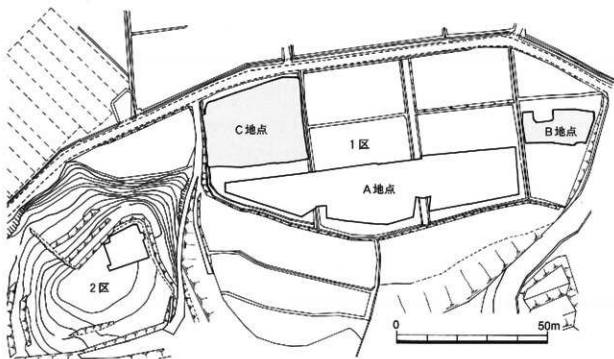
第3節 遺跡の概要

梅木田遺跡は、高岡町大字小山田字一本松・宗栄司に所在し、南側の丘陵端部には中世高岡の中心となる穆佐城がある。小山田地区は高岡町を東流する大淀川南岸にあたり、瓜田川によるやや開けた沖積地とそれを南北に囲む低丘陵で構成される。瓜田川は上流に瓜田ダムが建設される等河川改修が進んでいるが、改修以前は蛇行し洪水等の多くの被害を引き起こしていた。

遺跡はこれまで既に、平成12・13年度にふるさと農道緊急整備事業に伴って発掘調査が実施されている。今回の調査区は、前回の梅木田遺跡1区に隣接している。そこで、前回の調査区を梅木田1区A地点と改称し、今回の調査区を梅木田1区B地点・C地点と呼称する。

1区A地点の調査からは、以下に示す第I期～第IV期の変遷が確認され、①東西溝（水路兼運搬路）は時代とともに北上すること、②溝南岸には水田の広がる可能性が高いこと、が判明している。

第I期	霧島高原スコリア降灰以前 (直下で検出)	調査区南背面に入り込んだ谷地形に沿って弧状をなす水田、それに伴う群衆。
第II期	霧島高原スコリア降灰以後、 板島文明軽石降灰以前	自然流路を改変した1号溝・2号溝。溝底には杭列ならびに杭に横方向に丸材を組み合わせた護岸的施設あり。3・4号溝は人為掘削による。2号溝は遺物豊富。
第III期	板島文明軽石降灰以後、 IV・IIIb層堆積以前	断面V字に近い台形をした5号溝。
第IV期	IV・IIIb層堆積以後	6号溝。



第3図 調査区位置図

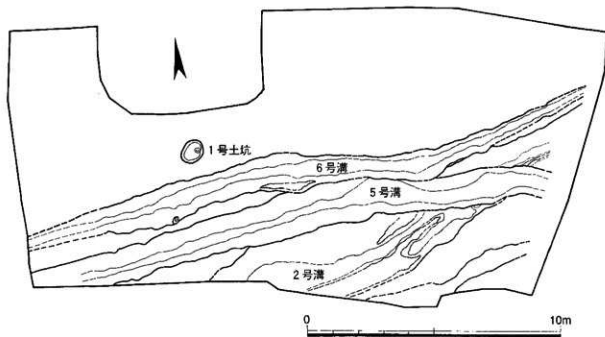
第Ⅱ章 調査

第1節 調査の方法

調査区の現況は水田・荒蕪地3面分である。B地点はA地点東隣の水田にあたり、表土直下で一部地山の粘土層が露出したため、その部分は調査対象から除外した。調査面積は218m²である。C地点はA地点西端と同一の水田面北側ならびにそれに北接する水田である。調査面積は834m²である。B・C地点はA地点と基本的に連続する調査区であり、より瓜田川に近い位置にある。

調査はまずB地点より着手した。B地点では泉文化財課の試掘によってA地点の溝の続きが確認されていたため、遺構名称の混乱を避けるためA地点で用いたものを踏襲した。基本層序についてもA地点と合わせた。表土除去後、Ⅱ層、Ⅲ層は、ほとんど確認されず、Ⅲb層上面で6号溝および1号土坑が検出された。Ⅳ層以下の包含層も確認されず、地山上面で2号溝および5号溝が検出された。2号溝からは杭列が検出されていたため、遺構実測・写真記録・空中写真撮影終了時点で杭をすべて持ち帰り、実測・樹種同定を実施した。遺構実測についてはその一部を業者に委託して行なった。このほか、出土した木製品等についても樹種同定を実施した。

C地点は、A地点から延びる溝の存在が予想された。ただし、C地点は工事掘削高が遺構検出面より上位であったため、A地点から延びる溝の方向のみ確認する目的のトレンチを4本設定し、土層観察を行なった。表土を除去したところ、調査区北東に地山の粘土層が、さらに調査区の北西部分は造成に伴う攪乱が深く及んでいた。遺構実測についてはその一部を業者に委託して行なった。溝中の杭等については削平が及ばないため現地保存とした。



第4図 B地点全体図

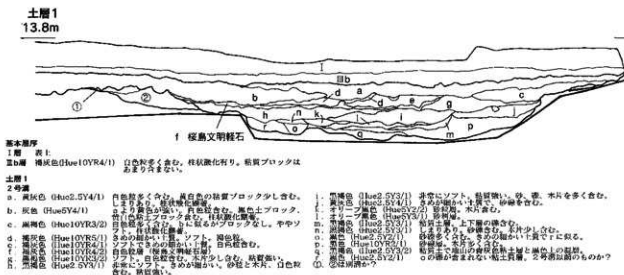
第2節 B地点の調査

1 地山上面の調査

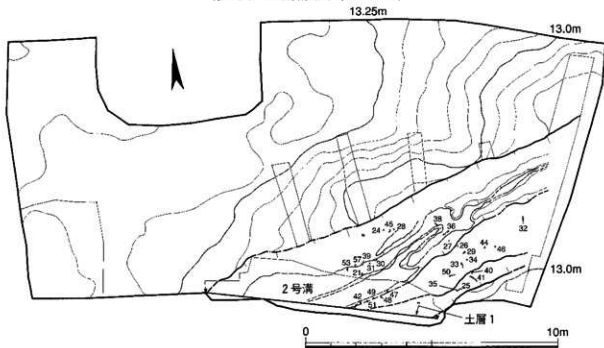
地山とした粘土層上面で2号溝および5号溝が検出された。2号溝は5号溝に切られている。

2号溝の特徴は、断面形状はいびつな台形で全体にダラダラとした立ち上がりである。底面はフラットでなく、凹凸が著しい。床面からの立ち上がりに杭が打ち込まれていた。ここまでの状況は、前回調査時に確認された2号溝の特徴に合致する。さらに床面から浮いた状態で、溝を横切る格好で杭列が検出された(図版3参照)。

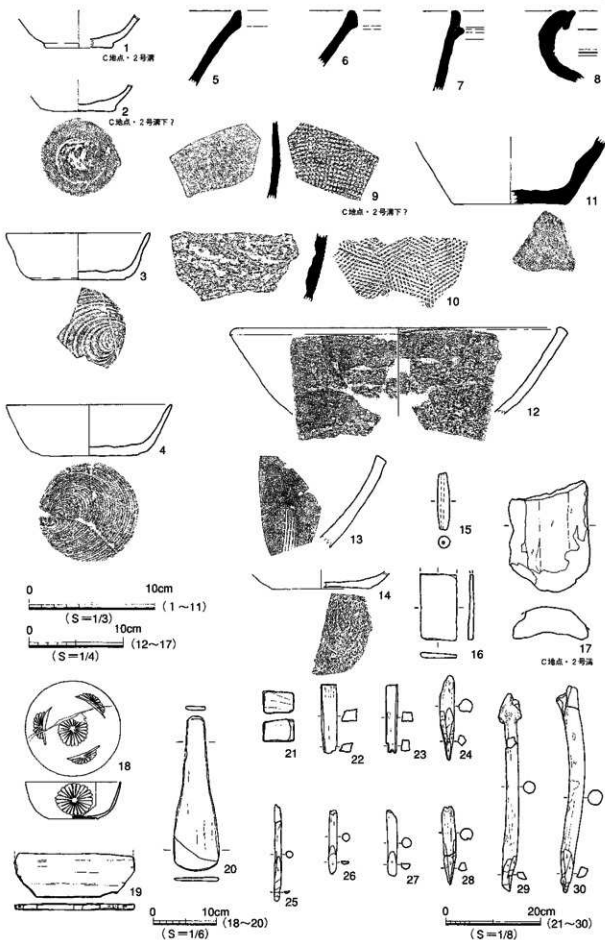
2号溝の床面および埋土中からは多くの遺物が出た。土師器環、須恵器甕・埴鉢、瓦質の釜、陶製の挿鉢、管状土罐、砥石、木製品がある(第7・8図・表1~4)。特記されるものとして木製品が



第6図 土層断面図 (S=1/60)

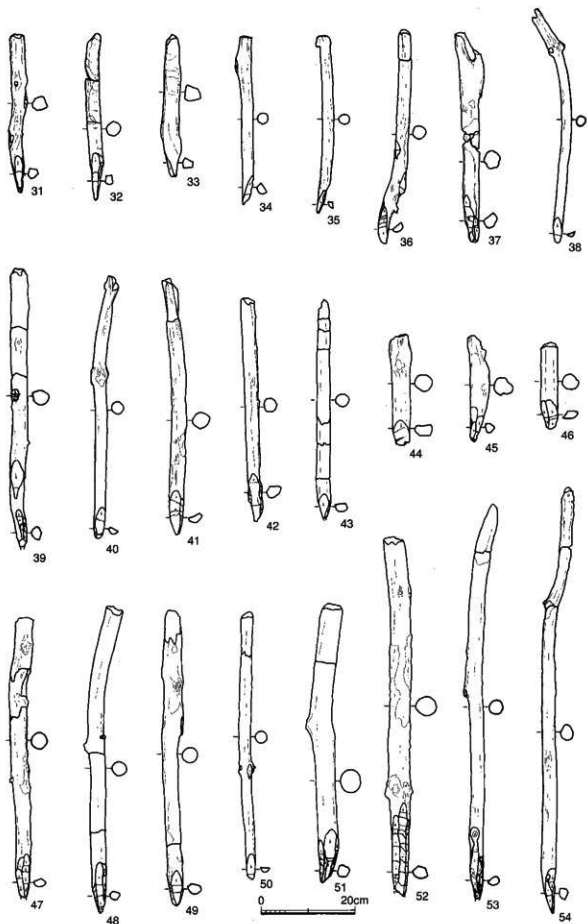


第5図 地山上面遺構配置図(1)



第7図 遺物実測図(1)

B地点2号溝出土遺物。但し、1、2、9、17はC地点出土。



第8图 遗物实测图(2) B地点2号洞出土遗物

ある。第7図18の漆器柄は、黒字に朱塗りの菊花文が外面に3点・内面見込みに1点・立ち上がりに3点描かれる。19の板状木製品は桶等の底板か。側面に釘穴と見られる細長い穴が3箇所穿たれる。20は杓文字か。幅広の下端が偏って摩滅することから使用痕であろう。

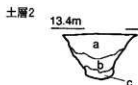
5号溝は断面V字に近い台形で、全体に整った溝である。床面に杭等は見られない。埋土中より少量の土器片等が出上したが、図化に耐えうるものはない。

2 IIIb層上面の調査

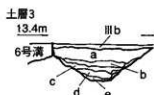
IIIb層上面で6号溝および1号土坑が検出された。

6号溝の特徴は、弱く蛇行し、調査区東側では削平の影響で床面近くのみを検出となった。断面形状

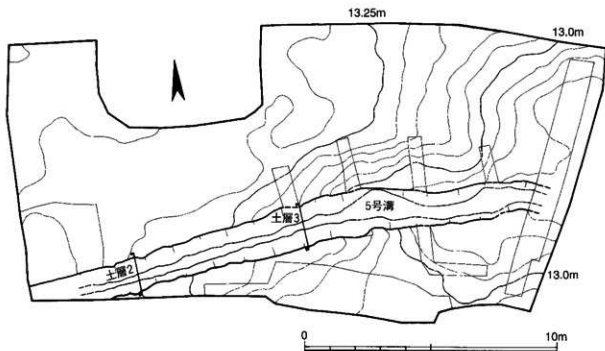
- 土層2
 a. 土層2b 土層3
 b. 黄褐色 (Hue2.5Y4/2) 土層3のaと同じ。
 c. 黄褐色 (Hue10Y4/1) 土層3のaと同じ。
 d. 灰土 (Hue7.5Y4/1) 黄褐色と灰土混じり、非常に粘り強い。



- 土層3
 a. 灰黄色 (Hue10YR4/2) 白色砂多く含む。石河原のI層と似るがそれより硬い。粘土ブロック含む。しまりあり。粘り強土多く含む。
 b. 黄褐色 (Hue2.5Y4/1) 粘り強土多く含む。砂粒多く混じる。aと比べソフト、粘り強土少ない。
 c. 暗灰黄色 (Hue2.5Y4/2) しまりあり。砂粒多く含む。粘り強土。粘土ブロック含む。
 d. 黄褐色 (Hue2.5Y4/2) ソフト。粘土ブロック含む。砂粒少し含む。
 e. 黄褐色 (Hue10YR3/1) 砂粒と灰土混多く含む。湿りやすく地出しものであろう。ソフト。



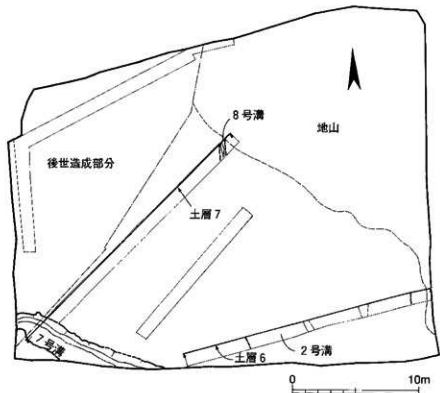
第10図 土層断面図 (S=1/60)



第9図 地山上面遺構配置図(2)

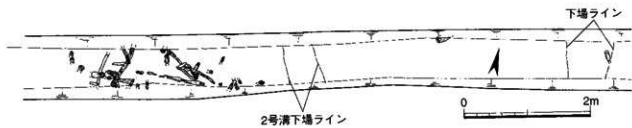
第3節 C地点の調査

土層6において2号溝が確認された。A地点で検出された2号溝と比べ、検出面での幅は広くなる。床面から杭列・縦横に組み合わせられた杭等が確認された。2号溝及び、2号溝下と思われる遺物が若干出土している(第7図、図版4)。土層7において溝2条が確認された。1条はA地点の5号・6号溝の延長の可能性もあるが、埋土中に多くの砂礫を含む等、同一溝とする根拠に乏しいため7号溝とした。もう1条は非常に浅くかつ板島文明軽石を含む。便宜上、8号溝とした。



第15図 C地点全体図

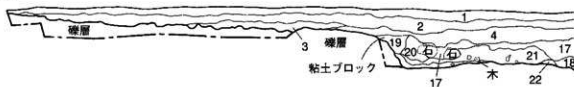
- | | |
|--|---|
| <p>土層6</p> <p>1. 黄褐色 (Hue2.5Y5/3)</p> <p>2. にぶい黄褐色 (Hue10YR5/4)</p> <p>3. 緑灰色 (Hue2.5Y5/2)</p> <p>4. 黄褐色 (Hue2.5Y5/4)</p> <p>5. 黄褐色 (Hue2.5YR5/3)</p> <p>6. 灰色 (Hue5Y4/1)</p> <p>7. 灰茶色 (Hue5Y6/2)</p> <p>8. 黄褐色 (Hue2.5Y5/2)</p> <p>9. オリーブ褐色 (Hue5Y3/1)</p> <p>10. 暗褐色 (Hue2.5Y4/2)</p> <p>11. オリーブ褐色 (Hue5Y3/2)</p> <p>12. 暗褐色 (Hue7.5YR3/4)</p> <p>13. 黒褐色 (Hue2.5Y1/1)</p> <p>14. 黄褐色 (Hue2.5Y4/1)</p> <p>15. オリーブ色 (Hue7.5Y5/2)</p> <p>16. 黒褐色 (Hue2.5Y3/2)</p> <p>17. 灰オリーブ色 (Hue5Y4/2)</p> <p>18. オリーブ褐色 (Hue5Y3/2)</p> <p>19. にぶい黄褐色 (Hue10YR6/4)</p> <p>20. 黄褐色 (Hue2.5Y4/1)</p> <p>21. 黄褐色 (Hue2.5Y4/1)</p> <p>22. 黄褐色 (Hue2.5Y5/1)</p> <p>23. 灰色 (Hue2.5Y5/1)</p> <p>※埋土下には赤褐色の1号溝、2号溝と推定する可能性がある。</p> <p>▲A地点で確認された板島文明軽石層は確認されていないが、4.5層に白色の灰土層が観察された。</p> <p>土層7</p> <p>1. 黄褐色 (Hue2.5Y5/3)</p> <p>2. オリーブ褐色 (Hue2.5Y4/3)</p> | <p>3. 黄褐色 (Hue2.5Y5/3)</p> <p>4. 黄褐色 (Hue2.5Y5/3)</p> <p>5. 黄褐色 (Hue2.5Y5/3)</p> <p>6. オリーブ褐色 (Hue2.5Y4/3)</p> <p>7. 暗灰色 (Hue2.5Y4/2)</p> <p>8. オリーブ褐色 (Hue2.5Y4/3)</p> <p>9. にぶい黄褐色 (Hue10YR5/3)</p> <p>10. 黄褐色 (Hue2.5Y5/3)</p> <p>11. 暗灰色 (Hue2.5Y4/2)</p> <p>12. 黄褐色 (Hue2.5Y5/3)</p> <p>13. 黄褐色 (Hue2.5Y5/3)</p> <p>14. 暗褐色 (Hue2.5Y5/2)</p> <p>15. 暗褐色 (Hue2.5Y4/2)</p> <p>16. 暗褐色 (Hue2.5Y4/2)</p> <p>17. 暗灰色 (Hue2.5Y5/2)</p> <p>18. 暗褐色 (Hue5YR3/5)</p> <p>19. 暗褐色 (Hue2.5Y5/2)</p> <p>20. 黒色 (Hue2.5Y1/1)</p> <p>21. オリーブ褐色 (Hue5Y3/2)</p> <p>7号溝</p> <p>a. 灰オリーブ色 (Hue5Y4/2)</p> <p>b. オリーブ褐色 (Hue2.5Y4/3)</p> <p>c. 黄褐色 (Hue2.5Y5/3)</p> <p>※7号溝は、掘土層1区A地点における、不明遺物として検出された溝と想定される。しかし、掘土層1区A地点に砂礫が多く含む浅く広い溝と、掘土層2区A地点の片割からの軽石の埋物の埋土と異なる。埋土層は区別層が検出されている。A地点埋土は検出されている。記号は埋土層。</p> |
|--|---|



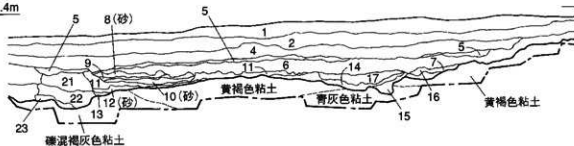
第16図 2号溝杭列実測図

土層6

13.4m



13.4m

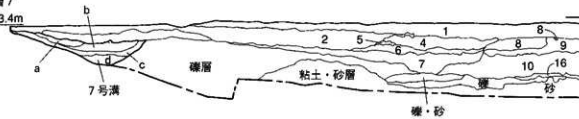


13.4m

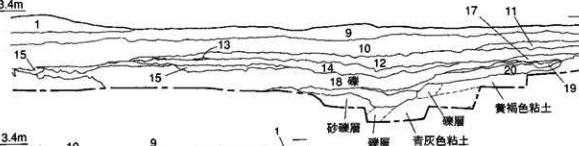


土層7

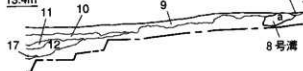
13.4m



13.4m



13.4m



8号溝
 ① 黄褐色 (Huc5Y5/4) しまりあり。0.5mm前後の白色細さむ。黄褐色粘土
 ② ②mm程度の白色粒は稀発又明露石の可溶性高い。

0 2m

第17図 土層断面図

※上層キャプションは前ページ

表1 土器観察表

地点	遺物番号	出土地点	種類	器類	法長 (cm)		胎土・調整ほか	色調	時代・産地ほか	
					口径	高さ				
C地点	1	2号溝第層	土師器	杯	—	5.5	黄緑色加色配合。白磁ナテ	外：淡黄褐色 内：淡褐色	中世	
C地点	2	2号溝下?	土師器	杯	—	5.9	黄緑色加色・褐色・白色配合。白磁ナテ・白磁へちり敷し	外：淡黄褐色 内：淡褐色	中世	
B地点	3	2号溝第層	土師器	杯	11.2	7.4	3.7	黄緑色加色・赤褐色・透明・白色配合。白磁ナテ・白磁へちり敷し	外：灰白色 内：淡黄褐色	中世
B地点	4	2号溝第層	土師器	杯	13.0	7.7	4.0	黄緑色加色・褐色・透明・白色配合。白磁ナテ・白磁へちり敷し	外：灰白色 内：淡黄褐色	中世
H地点	5	2号溝第層	須恵器	鉢	—	—	—	黄緑色加色・白色・透明配合。内外磁ナテ	外：灰白色 内：灰色	中世
B地点	6	2号溝第層	須恵器	鉢	—	—	—	黄緑色加色・透明・白色配合。内外磁ナテ	外：灰白色 内：灰白色	中世
B地点	7	2号溝第層	瓦質土器	蓋	—	—	—	黄緑色加色・透明・褐色配合。内外磁ナテ	外：灰白色 内：灰白色	中世
B地点	8	2号溝第層	須恵器	蓋	—	—	—	黄緑色加色・透明・白色配合。白磁ナテ・白磁へちり敷し	外：灰白色 内：灰褐色	中世
C地点	9	2号溝下?	須恵器	蓋	—	—	—	黄緑色加色・透明・白色配合。内外磁ナテ	外：灰褐色 内：灰褐色	中世
B地点	10	2号溝第層	須恵器	蓋	—	—	—	黄緑色加色・透明・褐色配合。内外磁ナテ	外：灰褐色 内：灰褐色	中世
B地点	11	2号溝第層	須恵器	蓋	—	—	9.0	黄緑色加色・透明・白色配合。内外磁ナテ・白磁へちり敷し	外：灰褐色 内：灰褐色	中世 (榑木山A地点と類似)
B地点	12	2号溝	七瀬土器	鉢	—	—	—	黄緑色加色・白色・褐色・透明配合。外黄緑ハテ・内黄緑ハテ	外：灰白色 内：灰白色	中世?
B地点	13	2号溝第層	陶磁器	模鉢	—	—	—	黄緑色加色・透明・白色配合。内磁ナテ後。縦方向5条以上のすり目	外：灰褐色 内：灰褐色	中世 (榑木山A地点と類似)
B地点	14	2号溝第層	陶磁器	蓋?	—	—	10.3	黄緑色加色・赤褐色・透明・白色配合。磁体不可切量し	外：褐色 内：灰褐色	中世
B地点	55	1号土坑	陶磁器	蓋	—	—	20.5	黄緑色加色・白色・褐色・透明配合。外：褐色 内：灰褐色	中世?	

表2 土製品観察表

地点	遺物番号	出土地点	器種	法長 (cm)	胎土・調整ほか	色調	時代・産地ほか
B地点	15	2号溝第層	土師	長さ6.0 幅1.2 重量7.9g	磁土は黄褐色	灰褐色	中世

表3 石器観察表

地点	遺物番号	出土地点	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
H地点	16	2号溝第層	砥石	浅褐色砂岩	(7.0)	(3.8)	0.6	27.6
C地点	17	2号溝第層	砥石	砂岩	(11.7)	(8.5)	(3.5)	410.0

表4 榑木田遺跡出土土製品の樹種同一一覧

※全てB地点2号溝

遺物番号	出土地点	遺物名	長さ	幅	時代	樹種	遺物番号	出土地点	遺物名	長さ	幅	時代	樹種
18	2号溝	漆器類	49.4	2.0	中世	ミズキ属	38	2号溝	丸木杭	49.4	2.0	中世	二葉松類
19	2号溝	3 板状木製品	58.9	3.4	中世	ヒノキ	39	2号溝	102 丸木杭	58.9	3.4	中世	少リ
20	2号溝	2 杵文字漆木製品	55.3	2.5	中世	モミ	40	2号溝	124 丸木杭	55.3	2.5	中世	二葉松類
21	2号溝	99 角材	54.0	3.2	中世	シイ属	41	2号溝	125 丸木杭	54.0	3.2	中世	二葉松類
22	2号溝	97 角材	47.1	2.8	中世	シイ属	42	2号溝	109 丸木杭	47.1	2.8	中世	タリ
23	2号溝	96 角材	46.1	2.8	中世	ツバラジ	43	2号溝	88 丸木杭	46.1	2.8	中世	ヤマウルシ
24	2号溝	106 丸木杭	23.5	3.7	中世	アカガシ属	44	2号溝	130 丸木杭	23.5	3.7	中世	アカガシ属
25	2号溝	126 丸木杭	22.5	4.0	中世	カマツカ	45	2号溝	107 丸木杭	22.5	4.0	中世	ハクシノキ
26	2号溝	120 丸木杭	18.3	3.5	中世	二葉松類	46	2号溝	131 丸木杭	18.3	3.5	中世	タリ
27	2号溝	119 丸木杭	59.1	3.4	中世	二葉松類	47	2号溝	113 丸木杭	59.1	3.4	中世	アカガシ属
28	2号溝	108 丸木杭	65.0	3.1	中世	イチジク属	48	2号溝	112 丸木杭	65.0	3.1	中世	ケヤキ
29	2号溝	121 丸木杭	62.3	3.2	中世	二葉松類	49	2号溝	111 丸木杭	62.3	3.2	中世	クスノキ科
30	2号溝	104 丸木杭	56.3	2.5	中世	タリ	50	2号溝	128 丸木杭	56.3	2.5	中世	二葉松類
31	2号溝	103 丸木杭	59.0	4.2	中世	シイ属	51	2号溝	110 丸木杭	59.0	4.2	中世	散孔材
32	2号溝	132 丸木杭	75.7	4.2	中世	サクラ属	52	2号溝	89 丸木杭	75.7	4.2	中世	二葉松類
33	2号溝	123 丸木杭	93.0	2.9	中世	タリ	53	2号溝	100 丸木杭	93.0	2.9	中世	カキノキ
34	2号溝	122 丸木杭	89.8	2.6	中世	二葉松類	54	2号溝	101 丸木杭	89.8	2.6	中世	二葉松類
35	2号溝	127 丸木杭	—	—	中世	二葉松類	2号溝	105 丸木杭	—	—	中世	カキノキ	
36	2号溝	118 丸木杭	—	—	中世	二葉松類	2号溝	136 丸木杭	—	—	中世	アカガシ属	
37	2号溝	101 丸木杭	—	—	中世	シイ属	—	—	—	—	—	—	

第三章 自然科学分析

第1節 梅木田遺跡出土木製品の樹種

株式会社 京都科学

宮崎県高岡町大字小山田字一本松・宗栄所に所在する梅木田遺跡は高岡町を東流する大淀川南岸にあり、大淀川の支流である瓜田川流域の低地（1区）およびその西に位置する低丘陵上（2区）に立地する。1区からは溝遺構が検出され同遺構からは多数の丸木杭のほか角材や漆器柄その他の木製品が出土した。これらのうち、B地点出土の39点について樹種の同定をおこなった。樹種同定の方法は定法にしたがい、安全カミソリで三断面の切片を切り出し、顕微鏡用標本を作製し、通常の光学顕微鏡で観察し、以下に示す樹種同定の拠点に基づいて樹種を特定した。その後、写真撮影をおこない樹種の特徴を記録した。

樹種同定の拠点。

二葉松類 (*Pinus* sp. *Diploxyton*)

樹脂道が存在する。樹脂細胞を欠く。放射仮道管に鋸歯状突起。分隔壁孔は窓状。

モミ (*Abies firma*)

樹脂道および樹脂細胞を欠く。放射柔細胞壁は厚く、末端壁は数珠状となる。放射仮道管を欠く。

ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*)

樹脂道を欠く。樹脂細胞は早・晩材の境界に接線状にまばらにみられる。分隔壁孔はヒノキ型。

ミズキ属 (*Cornus* sp.)

散孔材。道管は単独ないし2-4個複合する。階段穿孔。軸方向柔細胞は散在する。放射組織は異性で、1-4細胞幅。

ツブラジイ (*Castanopsis cuspidata*)

環孔材。孔圍道管は接線方向に不連続。孔圍外道管は集団をなして放射状にならぶ。集合放射組織がみられる。

シイ属 (*Castanopsis* sp.)

環孔材。孔圍道管は接線方向に不連続。孔圍外道管は集団をなして放射状にならぶ。

アカガシ亜属 (*Quercus* sp. *cyclobalanopsis*)

放射孔材。道管に単穿孔。放射組織は単列と広放射組織からなる。

クリ (*Castanea crenata*)

環孔材。孔圍道管は極めて大きい。孔圍外小道管は多数が火炎状にならぶ。単穿孔。放射組織は単列。

ケヤキ (*Zelkova serrata*)

環孔材。孔圍道管は接線方向に一列にならぶ。単穿孔。放射組織に結晶がみられる。

イチジク属 (*Ficus* sp.)

散孔材。道管は単独ないし2-3個放射方向に複合する。単穿孔。軸方向柔細胞は広い帯状柔組織と

なって、木口面で幾重にも縞状にならぶ。放射組織は異性。

クスノキ科 (*Lauraceae*)

散孔材。道管の周囲や柔組織に油細胞がみられる。道管にらせん肥厚。放射組織はほぼ異性。

バクチノキ (*Prunus zippeliana*)

散孔材。道管は放射方向に2-10個以上連なる。単穿孔。道管にらせん肥厚。放射組織は異性で1-5列。

サクラ属 (*Prunus* sp.)

散孔材。道管の大きさは中くらい。単穿孔。道管にらせん肥厚。

カキ (*Diospyros kaki*)

散孔材。壁の厚い道管がまばらにみられる。放射組織は異性で1-2細胞幅。

カマツカ (*Pourthiaea villosa*)

散孔材。道管はほぼ単独で分布する。主に単穿孔。道管にらせん肥厚。放射組織は異性で、1-4列。

ヤマウルシ (*Rhus trichocarpa*)

環孔材。孔間の幅は広い。単穿孔。道管にチロースが詰まる。小道管にらせん肥厚。放射組織は異性で1-2列。放射柔細胞に結晶あり。

樹種同定の結果は表5に示す通りであった。この表を整理して製品別の樹種点数を整理すると以下のようになる。

漆器桶：ミズキ属 1点、

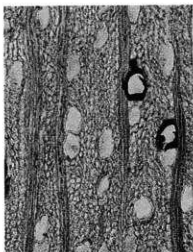
杓文字状木製品：モミ 1点、

板状木製品：ヒノキ 1点。

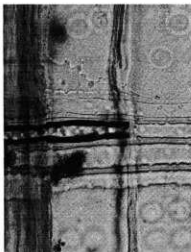
角材：シイ属 2点、ツブラジイ 1点、

丸木杭：二葉松類 12点、クリ 5点、アカガシ亜属 4点、カキノキ 2点、シイ属 2点、バクチノキ 1点、サクラ属、カマツカ 1点、イチジク属 1点、タブノキ 1点、ケヤキ 1点、サクラ属 1点、ヤマウルシ 1点、散孔材 1点。

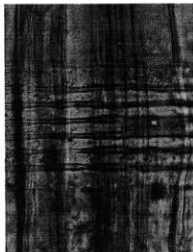
いずれの遺跡でもみられることであるが丸木杭には多数の樹種が利用されていることが窺える。これは周辺の森林から手に入る適当な太さの樹木を選んで用いたものと考えられる。特に、二葉松類が多いのはやはり、本種が周辺により多く分布していたものと考えてよいであろう。



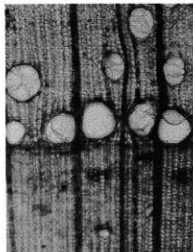
漆器柄 ミズキ属 ×7



杓文字状木製品 モミ ×280



板状木製品 ヒノキ ×280



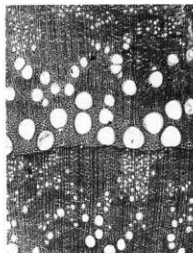
丸木杭 ヤマウルシ ×70



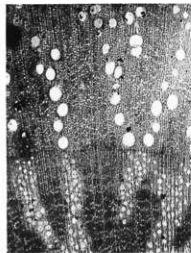
角材 ツブラジイ ×30



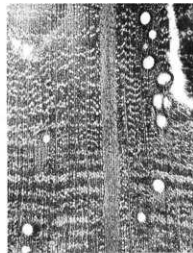
丸木杭 カキノキ ×30



丸木杭 クリ ×30

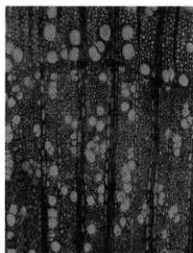


丸木杭 シイ属 ×30

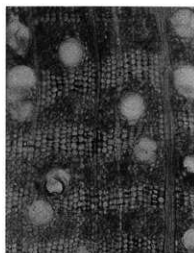


丸木杭 アカガシ亜属 ×30

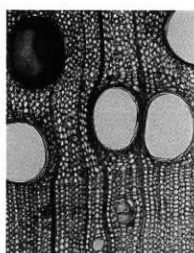
梅田遺跡出土木製品の顕微鏡写真(1)



丸木杭 バクチノキ ×30



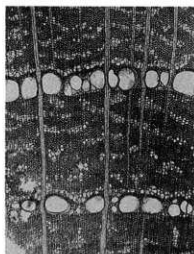
丸木杭 イチジク属 ×30



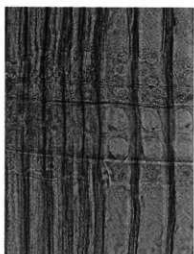
丸木杭 環孔材 ×30



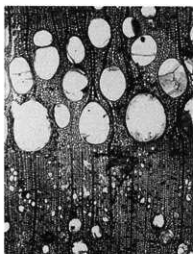
丸木杭 クスノキ科 ×30



丸木杭 ケヤキ ×30



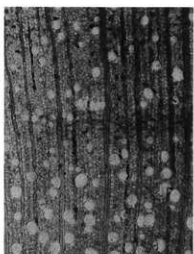
丸木杭 二葉松類 ×280



丸木杭 クリ ×30

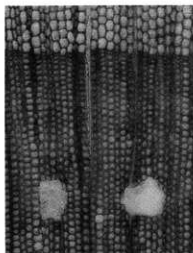


丸木杭 二葉松類 ×280

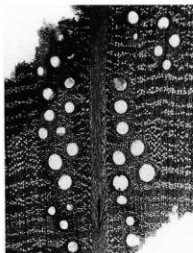


丸木杭 カマツカ ×70

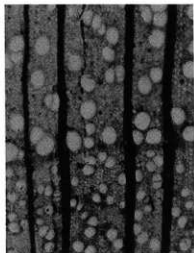
梅木田遺跡出土木製品の顕微鏡写真(2)



丸木杭 二葉松類 ×70



丸木杭 アカガシ亜属 ×30



丸木杭 サクラ属 ×70



丸木杭 二葉松類 ×280

表5 梅木田遺跡出土木製品の樹種同定一覧

遺物番号	出土地点	遺物名	時代	樹種	サンプルNo	備考
18	2号溝	漆器椀	中世	ミズキ属	KK-516	KB670021-1
20	2号溝	杓文了状木製品	中世	モミ	KK-517	KB670021-2
19	2号溝	板状木製品	中世	ヒノキ	KK-518	KB670021-3
43	2号溝	丸木杭	中世	ヤマウルシ	KK-519	KB670021-88
52	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-520	KB670021-89
23	2号溝	角材	中世	ツブラジイ	KK-521	KB670021-96
22	2号溝	角材	中世	シイ属	KK-522	KB670021-97
21	2号溝	角材	中世	シイ属	KK-523	KB670021-99
53	2号溝	丸木杭	中世	カキノキ	KK-524	KB670021-100
37	2号溝	丸木杭	中世	シイ属	KK-525	KB670021-101
39	2号溝	丸木杭	中世	クリ	KK-526	KB670021-102
31	2号溝	丸木杭	中世	シイ属	KK-527	KB670021-103
30	2号溝	丸木杭	中世	クリ	KK-528	KB670021-104
	2号溝	丸木杭	中世	カキノキ	KK-529	KB670021-105
24	2号溝	丸木杭	中世	アカガシ亜属	KK-530	KB670021-106
45	2号溝	丸木杭	中世	バクチノキ	KK-531	KB670021-107
28	2号溝	丸木杭	中世	イチジク属	KK-532	KB670021-108
42	2号溝	丸木杭	中世	クリ	KK-533	KB670021-109
51	2号溝	丸木杭	中世	散孔材	KK-534	KB670021-110
49	2号溝	丸木杭	中世	クスノキ科	KK-535	KB670021-111
48	2号溝	丸木杭	中世	ケヤキ	KK-536	KB670021-112
47	2号溝	丸木杭	中世	アカガシ亜属	KK-537	KB670021-113
38	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-538	KB670021-117
36	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-539	KB670021-118
27	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-540	KB670021-119
26	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-541	KB670021-120
29	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-542	KB670021-121
34	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-543	KB670021-122
33	2号溝	丸木杭	中世	クリ	KK-544	KB670021-123
40	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-545	KB670021-124
41	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-546	KB670021-125
25	2号溝	丸木杭	中世	カマツカ	KK-547	KB670021-126
35	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-548	KB670021-127
50	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-549	KB670021-128
44	2号溝	丸木杭	中世	アカガシ亜属	KK-550	KB670021-130
46	2号溝	丸木杭	中世	クリ	KK-551	KB670021-131
32	2号溝	丸木杭	中世	サクラ属	KK-552	KB670021-132
	2号溝	丸木杭	中世	アカガシ亜属	KK-553	KB670021-136
54	2号溝	丸木杭	中世	二葉松類	KK-554	KB670021-II層一括

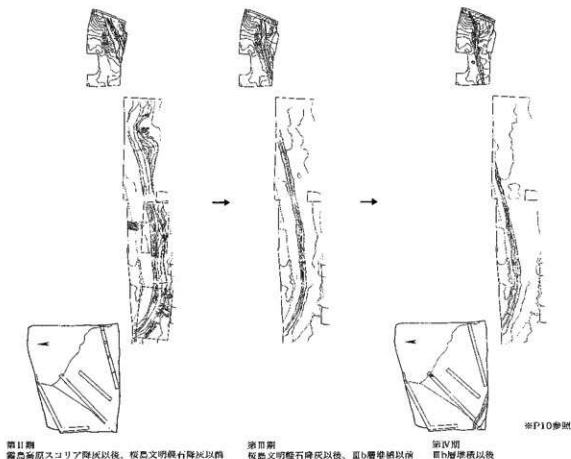
第IV章 まとめ

今回の調査では、ふるさと農道緊急整備事業に伴う発掘調査に引き続き溝が数条確認された。溝周辺に予想された水田については、削平が及んでいたこともあり今回もまた未確認となった。

また、本文中では触れていないが、包含層中や溝遺構の埋土中からチャート製切片が少量出土した。ふるさと農道緊急整備事業に伴う2区の調査で縄文時代早期の散布地が確認されており、それらからの流れ込みであろう。

さて、梅木田遺跡では木製品が多く遺存しており、今回の調査でも多数出土した。木製品は町内の他一般の乾燥地遺跡では既に滅失している場合が多く、低湿地調査の少ない宮崎県全体からみても貴重な成果になると同時に、梅木田地区における当時の生活の具体像を知る生々しい資料となった。

木製品については、ふるさと農道緊急整備事業出土分と合わせ、樹種同定を継続できたのも大きな成果である。中でも2号溝に伴う杭等については持ち帰り分のほぼ全点について同定を実施した。その結果、二葉松類ほかの針葉樹や多種に渡る広葉樹（照葉樹林系）の材の利用が判明した。これは遺跡周辺の当時の植生を反映したものと推測される。また、桶等の底板かと思われるものにヒノキ・杓文字にモミと、板状に加工される製品に針葉樹が多用される点は、該期の宮崎県内で一般にみられる樹種選択とほぼ一致している。



第18図 遺構変遷図



遺跡遠景（北東から）



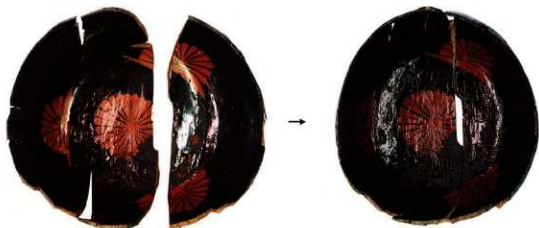
遺跡遠景（西から）

図版 2

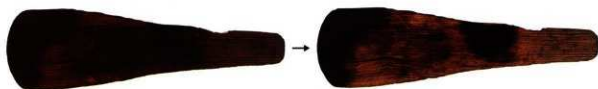
保存処理木製品

(保存処理前)

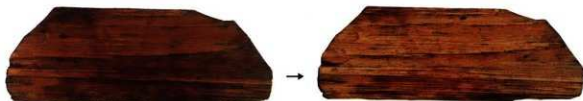
(保存処理後)



漆器碗



杓文字杖木製品



板杖木製品

B地点



2号溝



2号溝



2号溝遺物出土状況



5号溝 (土層 2)



5号溝 (右)



6号溝 (土層 4)



6号溝



1号土坑

図版 4

C地点



土層 7



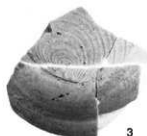
2号溝杭列 (土層 6)



7号溝 (土層 7)



7号溝



3



6



7



8



13



15



16



17

出土遺物



内面

漆器椀



外面



表面

板状木製品



裏面



表面

杓文字状木製品



裏面

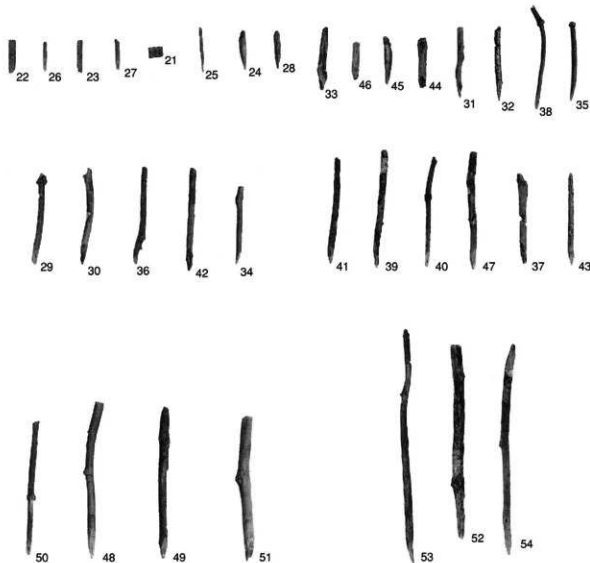


表6 報告書抄録

フリガナ	ウメノキダイセキイチク
書名	梅木田遺跡1区 (B・C地点)
副書名	県営経営体育成基館整備事業 (小山市地区) に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻数	
シリーズ名	高岡町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第42集
編集者名	藤木 晶子
発行機関	高岡町教育委員会
所在地	宮崎県東諸県郡高岡町大字内山2887番地
発行年月日	2005年12月28日

所収遺跡名	所在地	コード		緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
梅木田遺跡 1区 (B・C地点)	東諸県郡高岡町大字 小山田2074外	45 - 381	33703 33704	31° 55' 56"	131° 18' 56"	2003.4.22) 2003.12.28	1,052㎡	圃場整備
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	中世	溝		土器・木製品		杭列をもつ溝 漆器検		

高岡町埋蔵文化財調査報告書第42集

梅木田遺跡1区 (B・C地点)

2005年12月

編集・発行 高岡町教育委員会
 〒880-2292
 宮崎県東諸県郡高岡町大字内山2887番地
 TEL. 0985-82-1111

印刷 株式会社宮崎南印刷
 〒880-0911
 宮崎県宮崎市大字田吉350-1
 TEL. 0985-51-2745